

小池の宿跡巡回整備と法要

(森閑の小池宿に響き渡る読経と法螺の音)

◇実施日…2020年3月22日(日) 曇り

◇参加者…沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、畑林清子、生熊千満子、大江加予子、高階美根子、中前偉、岩本信行、竹中卓治、湯川一郎、志岐敬、梶野照雄、瀧本昭太郎、斎藤和美、平田美紀、佐藤優美子、椎木堯・照子(広島県)、柴田宣弥、角聖史(熊野修験)

21名

この時期は南奥駆道の連休前点検巡視がメイン行事となるが、以前、植平修氏から「小池の宿への案内をお願いしたい」との要望があったことと、摩看板の設置に向く必要があることに加えて、平成29年10月9日に16人で出向いて以来約2年半訪問していないため、行事計画に組み入れた。結果、遠く広島県より椎木さんご夫妻、瀧本グループの女性陣3名の参加もあって、総勢20名の大人数となった。

当日8時半少し前、前鬼・小仲坊に乗り入れた。五鬼助さんに挨拶時、行者さんが一人おられた。熊野修験を主に活動されている柴田さん(尼崎市)で、この三連休は前鬼を中心に行をされていた。今日は特段予定がないとのことで、小池の宿巡視にお誘いする。今日は中前君も参加しているので、行者さんも揃って総員21名とな

る。



行者さんの紹介



急斜面を登る



池郷川に下る



小池の宿跡の清掃



摩看板を設置



護摩供法要

9時前にスタート、小仲坊取水場のあたりから尾根にとりつくが、ピンクテープの少し手前から登りだした。踏み跡も薄く急斜面で、

足場も最悪で、皆さん四苦八苦の末やっと尾根へ。ここで20分ほど費やしてしまいました。以後3〜4回の休憩を取って11時過ぎに小池の宿跡に着く。この間3か所はかなり大物の倒木があった。尾根から小池の宿へ下った所で登ってきた6〜7人のグループと出会った。小池の宿付近でテントを張り、今日前鬼へ下山中とのこと。この時期にこの場所で登山者に出会うとは思っていなかった。このグループのリーダーは大峯をかなり熟知しているようだった。

11時過ぎ、無事に小池の宿に着く。早速持参したホウキ、ジョレン、熊手を手に女性陣が掃除を行う。傍で梶野君が枯れ木を小切っている。護摩を焚くとのことで用意万端が整い、柴田さんを導師に中前、角の両名が脇を固め、線香と護摩壇に火を入れる。濛々と煙に上がる中、法螺の音が周辺に響き渡り「大峯75摩奥駆勤行次第」に則り、懺悔文、心経、御真言と進み、本覚讚で締めていた。終了後昼食とし、小池の宿を後にした。



本日の参加者

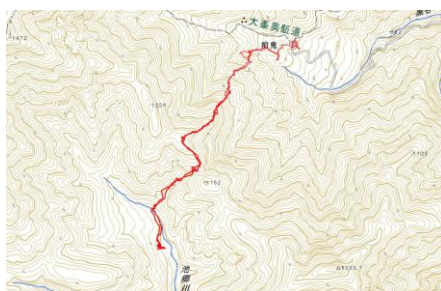


倒木を切除



大日、釈迦、孔雀

下山中、一部で道を逸れてしまったが、多人数であったため大事には至らなかった。登山道として確定する上での課題だ。また、梶野君は3ヶ所で太い倒木をチェーンソーで処理した。前鬼のお墓に立ち寄り、全員小仲坊に帰着した。



前鬼代々のお墓

行者堂で勤行

小池の宿までの行程

我々ぐるーぷだけでの小池の宿では、線香をあげて手を合わせるだけであったが、柴田さん、中前、角の両君の参加で大変充実した小池の宿訪問であった。小池の宿で護摩供を行い、その炎と煙、そして響き渡る読経と法螺の音の様相は得難いものだった。御三方にお礼申し上げます。

20年近く前、玉岡相談役に初めて小池の宿に案内して頂いた時、同行の藤原行者さんが護摩供養されていた記憶があるが、今回の護摩供はその時以来のことだと思う。

昨今、世界中が新型コロナウイルスで大変なことになっている。大峯でも登山者の姿は少なく閑散としている。大型連休を前にして

も、各小屋への宿泊予約や問い合わせは皆無である。

今後の活動は、その予定計画を肅々と進める方針ですが、会友の皆さん、健康に留意して無理をせず、十分にご自愛下さい。

(記；沖崎、写真；梶野、岩本)

行動タイム

小仲坊 08：50→09：03 尾根取り付き→10：15 広尾根→10：32 谷下
降地点→10：55 小池の宿跡 12：35→14：43 小仲坊水源→15：00 小
仲坊